

# 令和5年度上期 関東森林管理局事業評価技術検討会 議事概要

## 1 日時

令和5年7月26日（水） 10:00～12:00

## 2 会場

WEB会議

## 3 出席者

技術検討会委員（50音順）  
岩岡正博委員、立花敏委員、山崎靖代委員

関東森林管理局  
森林整備部長、計画保全部長、計画課長、治山課長、治山課長補佐、治山課設計指導官、森林整備課長、森林整備課長補佐、資源活用課長、企画調整課長、企画調整課監査官、企画調整課監査係長、

## 4 議事概要

### ○完了後の評価について

[森林環境保全整備事業（八溝多賀森林計画区）]  
[森林環境保全整備事業（鬼怒川森林計画区）]  
[森林環境保全整備事業（天竜森林計画区）]

（委員） いずれの地区も、令和5年度の費用便益分析結果は、平成25年度時点より小さくなっている。減少の仕方が軽度のところもあれば、重度のところもあるが、それぞれどういったことが影響しているのか。地域、地域の事情を把握することによって、今後の事業において検討すべきことが見えてくるのではないか。

（関東局） 要因の一つとして、平成28年度、平成30年度の算出方法の改正が挙げられる。

（関東局） 平成28年度に森林環境保全整備事業の対象となる間伐の林齢の上限が引き上げられ高齢級間伐が可能となったこと、予算措置がなされたことから、各地区とも間伐の実施面積は当初計画より増加した。その分、総費用も増したが、いずれの地区も結果としてB/Cは1.0以上となっており、過剰投資となっていないことが確認できた。B/Cの減り幅が大きい八溝多賀地区は、他地区より人工林率が高いことから間伐の対象林分も多く、間伐の実施面積の増分は約1千haと相当大きくなった。このことが地域差の発生に効いていると考えている。

（委員） 天竜森林計画区について、「主伐・再造林を先駆けて実施している国有林に求められている指導・普及」とは何を指すのか。私有林や公有林に対して、技術的な面での指導・普及を行っているのか。

（関東局） 国有林では、例えば成長の早いエリートツリーを植栽して下刈回数を削減するなどの新しい取組を行っており、実施の際は民有林関係者にも参加いただいた見学会や検討会を開催している。

（委員） 天竜森林計画区においては、再造林にテーダマツを使う方針なのか。韓国は朝鮮戦争の後に国を挙げて再造林をした際に、テーダマツがかなり植えられたが、通直性に欠けるために、一般材ではなく木質ボードへの利用が主となっている。テーダマツは通直性に欠けるという認識であり、材としての特質を考慮して、推進する必要があるのではないか。

（関東局） 天竜森林計画区では、昭和40年代頃に外国樹種が導入されており国有林及び民有林にテーダマツの成長した林分がある。合板材料としての試験を行

ったところ成績が良かったので、需要はあると考えている。天然下種による稚樹の発生が旺盛で成長も早いので、民有林において再造林意欲を高める観点からも注目している。

(委員) 浜松市は FSC 認証を積極的に実施しているとのことだが、FSC は外来種に対して慎重であり、天然更新で増えるということは、使用に気を付けなければいけないのではないか。

(関東局) 天然下種での造林地外への拡散は、気にすべきと認識している。静岡県の研究機関と共同研究を行っており、生態系への影響も考えていきたい。

(委員) 天竜森林計画区は、他の 2 地区に比べて、再造林面積の人工林面積に対する比率が極端に小さいが、理由は何か。

(関東局) 計画段階では、更新は 261ha を予定していた。主伐については、対象地の多くが契約林で、立木販売で売れなかったため、結果的に更新面積が小さくなったと考えられる。

(委員) 各地区とも、エリートツリーや花粉症対策等のコンテナ苗を使用しているとのことだが、これはすべてスギか。50 年後に収穫する材が今より材質が落ちることにならないか。

(関東局) 事業実施時はコンテナ苗は先駆的なものであったので、ほとんどがスギと思われる。現在でも、花粉症対策のコンテナ苗はスギがメインで、ヒノキは生産が少なく 2 割程度となっている。使用しているコンテナ苗は、エリートツリーを母樹として生産されている。エリートツリーは成長が早くて材質も良いものである。

(委員) シカの防護柵が破られることはないのか。

(関東局) 破られるため、設置後のメンテナンスは必要。対応として、破れにくいステンレスを編み込んだ網の価格が下がったことから、現在はステンレスを編み込んだ網を使用し、その普及に努めている。

(委員) 国有林の取組を普及しているとの話があった。是非民有林に色々教えてほしい。

(委員) コンテナ苗の植付器具は何か。ディブルは土が柔らかくないと使用が難しいのではないか。

(関東局) 天竜署ではディブルと唐鍬を比較試験したが、急傾斜地では唐鍬を改良したもののほうが効率が良かった。条件により使い分けが必要と考える。

(委員) シカ柵と単木柵ではどちらの成績が良いのか。ステンレス柵は資材が安くなっても施工費がかかるのではないか。

(関東局) シカ柵よりも単木保護資材の方が ha あたりの施工費が高いことから、ステンレスの入った網を使用したネット柵の設置を関東局管内では進めている。

(委員) ステンレスの入った網はシカの角が絡まることなく、メンテナンスコストも下がるのか。

(関東局) 角が絡まることはある。維持管理も含めたトータルコストの予測について技術開発を行っているところ。

## 〔国有林直轄治山事業（妙高山地区）〕

(委員) 土石流センサーを設置してモニタリングをしているとのことだが、どういった予算を使用しているのか。設置やメンテナンスはこの事業とは別の形で行っているのか。

- (関東局) この事業を引く次ぐ形で、治山事業としてメンテナンスの予算を毎年計上しており、監視・観測を行っている。
- (委員) 地元自治体からも重要性が注目されており、しっかりと行われることを期待したい。
- (委員) この地区では広葉樹もミックスされた地区なのか。また、土石流センサーは他の地域でも使われているのか。
- (関東局) 奥地にあり積極的に森林施業を行う地域ではないため、広葉樹が十分あると思われる。また、土石流センサーの設置には費用もかかることから、リスクの高いところに限定されるため、その設置個所は多くはない。

## ○期中の評価について

### 〔民有林直轄治山事業（大井川地区）〕

- (委員) ユネスコエコパークに認定されるなど、この地域の人の往来が増える可能性があり、しっかりと事業を進めて、安全性を確保していただきたい。
- (委員) 昭和 41 年から事業を実施しているとのことだが、最初に実施した箇所が壊れたりしないのか。
- (関東局) たびたび破損が起きている。最終的に事業が完了すると、施設の管理等を含め静岡県に移管することになる。そのため、移管を見据えて、壊れた施設の補修等をこの事業の中で現在も進めているところ。
- (委員) B/Cが増加していることもあり、重要性が高い事業であり、地元要望からも事業の継続が必要と思われる。
- (委員) 事業評価技術検討会の意見については、長く事業を継続していることも踏まえ、「社会経済的な変化」という文言を入れてもいいのではないか。
- (関東局) おっしゃる通り、文言の追加を検討する。